



市立三次中央病院 緩和ケアセンター主催
備北緩和ケア月例公開研修会⑤《通算第30回》

- 日時：平成30年7月7日（土）
13:00～14:30（90分）
- 会場：市立三次中央病院
健診センター2階 大講堂

- 演題：＜特別招請講義＞

がん性疼痛の評価と治療

—どんな痛みにも対応できるようになるためには?—

- 演者：余宮 きのみ 先生
埼玉県立がんセンター緩和ケア科部長

わが国における緩和ケア臨床の第一人者を、今年も当院主催のがん治療医向け緩和ケア研修会にお招きできましたので、その貴重なご講義の一部を医療・看護・介護・福祉関係者等を対象として開放いたします。

がん患者の疼痛評価と鎮痛技法に関して、初歩から高度な応用まで幅広く学ぶことのできる絶好の機会です。奮ってご参加ください。

＜講師略歴＞

余宮 きのみ(よみや きのみ)：1991年日本医科大学卒。大学4年の時に聴いたホスピス医の講演に感動、緩和ケア医を志す。内科、整形外科、神経内科、リハビリテーション科、在宅ホスピスで研鑽を積み、2000年から埼玉県立がんセンター緩和ケア科に所属、緩和ケア病棟・緩和ケア外来・緩和ケアチームで八面六臂の実践を展開、2009年より現職。日本緩和医療学会がん疼痛薬物療法ガイドライン改訂委員会副委員長、日本緩和医療学会評議員・ガイドライン作成委員、日本膵臓学会膵癌診療ガイドライン改訂委員会委員、日本癌治療学会診療ガイドライン委員会協力委員、星薬科大学非常勤講師。著作多数。

